

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科(夜間部)) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学に関わるできるだけ幅広い領域の特に重要と思われる事項について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			生命倫理学	生命倫理にかかわる諸問題を広く浅く取り扱う。	1前	30	2	○			○			○	
○			研究法概論	医療分野における研究の必要性を学習した上で、基礎研究および臨床研究に必要な、研究モデルの作成・データの解釈について学んでいく。	2後	30	2	○			○		○		
○			情報処理科 学	PCによるレポート作成に必要なソフトウェアの使い方を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			健康科学	健康医療福祉にかかわる専門職として、自分自身の健康に関心を持ち、自ら適切な健康管理を行うための基礎知識の習得を目指す	1前	30	2	○			○		○		
○			統計学	理学療法の臨床効果ならびに科学的実践に結びつけるための論文の読解力を培う。統計学の基本、基本的統計から統計の応用的活用について学習する。	2後	30	2	○			○			○	
○			医学英語	医療・福祉施設では、医学英語が使用される事が多い。将来、理学療法士として、英語文献の読解、国際社会での研究発表では	1前	30	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅰ	人体の基礎構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を	1前	60	4	○			○		○		
○			解剖学Ⅱ	人体の基本構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を	1後	60	4	○			○		○		
○			解剖学演習	解剖学Ⅰで学んだ人体の基本構造を復習し、より理解を深める。	1後	30	1		○		○		○		
○			生理学Ⅰ	理学療法士に必要な身体生理を学ぶとともに、臨床の場に即した状況の紹介を行いながら、その内容について説明する。	1前	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	理学療法士に必要な身体生理を学ぶとともに、臨床の場に即した状況の紹介を行いながら、その内容について説明する。	1後	30	2	○			○			○	
○			生理学実習	生理学は人の身体の働きを学ぶ学問である。生理学実習では、生理学で学んだ知識に関して、実体験を通じて理解を深める事	2前	45	1			○	○		○		
○			運動学	運動学の知識は理学療法士の基盤である。運動学の基礎を理解し、力学的観点から関節運動や動作を考え、客観的に説明できる能力を身につける。	1前	30	2	○			○		○		
○			運動学実習	各関節の運動について知り、基本動作の成り立ちを学び、正常動作の観察・分析ができるようになる。	1後	45	1			○	○		○		
○			機能解剖学	解剖学の知識をもとに、実際に体表から主たる骨、筋、神経、血管の触知を行えるようになることを目的とする。	1後	30	1		○		○		○		
○			人間発達学	人間の胎児期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			臨床心理学	様々な要因で苦しんでいる人(含む患者さん)の話をお聴きすること、気持ちを察すること、行動や態度の裏側にあるものを推定する重要性を理解する。	1後	30	2	○			○			○	

○		病理学	医療従事者を目指す上で、必要な様々な疾病の原因及び、その病態について理解を深	1後	30	2	○			○			○
○		障害学	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを	2前	30	2	○			○			○
○		整形外科学	整形外科についての基礎を理解する。また、各々の疾患における理学療法との関わりについて、理解することを目的とする。	1後	30	2	○			○			○
○		内科学	実際の現場では様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1後	30	2	○			○			○
○		神経内科学	当講義は、神経内科学の基本的な知識とその考えを理解し、個々の神経疾患の病態・診断・治療を理解することを目的としている。	1後	30	2	○			○			○
○		一般臨床医学	高度化する医療ニーズに対応し、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に則した理学療法を実践するため、栄養学、臨床医学、画像診断学、救急救命医学、予防などの基礎知識を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○
○		精神医学	精神医学への興味、精神障害者への理解を深めることを目的とする。	1前	30	2	○			○			○
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの基本的な概念・理念・定義、社会保障制度や法律を理解すること。また、リハビリテーションはチーム医療で成り立っており、各専門職が共通理解する中で、それぞれの専門性を発揮する必要がある。そのためには、リハビリテーションの従事するそれぞれの専門職の役割と視点を理解し、患者を病気や障害だけでなく、「生活する人」としてとらえ、リハビリテーションの協業を熟考する場とする。言語聴覚士の分野に関して、言語聴覚士の役割を理解し、様々な職種とチームに	1前	30	2	○			○			○
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学について、その概略を解説し、さらにリハビリテーションの対象となる各疾病の、概念や検査、治療方法などについて、基本的事項を習得する。	2後	30	2	○			○			○
○		理学療法管理学	より高い理学療法を提供するため、保健・医療・福祉に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法教育について	2後	30	2	○			○			○
○		理学療法概論	本講義では、理学療法の基本的な考え、専門性、役割を理解することを目的とする。理学療法の今後と展開についても説明を行	1前	30	2	○			○			○
○		理学療法演習	理学療法・理学療法士とは何かを理解する。現在、学内で学んでいることが、臨床にどう生かされていくのかを学ぶ。また、臨床の理学療法・理学療法士の役割を理解	2後	30	1	○			○			○
○		症例研究Ⅰ	実習地で経験させていただいた症例を発表、学生間で検討することにより、より多くの情報を共有し知見を広げることを目的	3前	60	2	○			○			○
○		症例研究Ⅱ	グループワークにおいて国家試験過去問題を解き、問題への理解を深める。また、他社の問題解決家庭や問題解決を援助し合い、症例への理解を深める。	3後	60	2	○			○			○
○		理学療法研究法	基本的態度と能力を養うことを目的に、担当教員の指導のもと、学生毎にテーマを定めて研究活動を行い、口述発表を行う。	3後	60	2	○			○			○
○		総合理学療法演習基礎Ⅰ	1年2年時に学習した基礎医学の復習から知識の定着を図る。	3前	60	2	○			○			○
○		総合理学療法演習基礎Ⅱ	基礎医学や評価手技をもとに、疾患との関連などの応用を学習する。	3後	60	2	○			○			○

○		総合理学療法 演習専門Ⅰ	1年2年時に学習した基礎医学の復習から知識の定着を図る。	3 前	60	2		○		○		○			
○		総合理学療法 演習専門Ⅱ	疾患別評価や手技をもとに、障害との関連など臨床応用を学習する	3 後	60	2		○		○		○			
○		理学療法評 価学Ⅰ	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいと	1 後	60	3	○	△		○		○	○	○	○
○		理学療法評 価学Ⅱ	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいと	2 前	60	3	○	△		○		○	○	○	○
○		動作分析学	基本となる動作観察や分析から疾患特有の動作観察・分析について触れ、少しでも臨床につなげていくことを目的とする。	2 後	30	2	○	△		○				○	○
○		理学療法技術 論	理学療法評価についての知識と技術を学習する。	3 前	30	2	○			○		○			
○		理学療法技術 論演習	保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術を学習する。	3 後	30	1		○		○		○			
○		日常生活活 動Ⅰ	一人の人間が独立して生活するために行う、基本的な身体動作を理解する。	2 前	30	2	○			○		○			
○		日常生活活 動Ⅱ	基本的な ADL 援助技術を身に付け、障害者の生活の多様性に柔軟に対処できるように	2 後	30	1		○		○		○			
○		運動療法学	本講義では、運動療法の基礎について学び、関節可動域運動や筋力増強運動等の基本的な技術の体得を図ることを目的として	2 前	60	3	○	△		○		○			
○		物理療法学	物理療法の定義、目的を理解する。物理刺激が生体に及ぼす生理学的作用を理解する	2 後	60	3	○	△		○		○			
○		義肢装具学	リハビリテーションにおける義肢装具の目的と役割を理解する。	2 後	60	3	○	△		○				○	
○		骨・関節疾患 理学療法	運動器の障害と理学療法を学習する。運動器疾患のリハビリテーションは理学療法分野において中心的な役割を担っている。	2 前	30	1		○		○		○			
○		スポーツ疾 患理学療法	スポーツ疾患における理学療法、アスレティックリハビリテーションを学習する。また各スポーツにおける競技特性を学習し、スポーツ傷害の原因を考える。	2 前	15	1	○			○		○			
○		脳血管障害 理学療法Ⅰ	この脳血管障害という疾患は理学療法の現場で最も相対する機会の多いこともあり、総合的な理解を目指す。	2 前	30	2	○			○		○			
○		脳血管障害 理学療法Ⅱ	脳血管障害の理学療法評価及び基本治療（理学療法）について学習する。	2 後	30	1		○		○		○			
○		神経・筋障害 理学療法	臨床場面で接する機会の多い、神経・筋の病態と理学療法について教授する。	2 後	30	1		○		○				○	
○		発達障害理 学療法	小児リハビリテーションの概要について理解を深めると同時に、理学療法を実施するための小児理学療法評価、正常発達を学習	2 後	30	1		○		○				○	
○		内部疾患理 学療法	内部疾患の理学療法の評価と治療について臨床現場をイメージできるように講義して	2 後	30	1		○		○				○	
○		生活環境論	授業では、障害者を取りまく環境を十分に把握し、障害者の身体状況や精神的側面に配慮したよりよい環境整備の方法や関連する法的諸制度について教授する。	2 前	30	2	○			○				○	
○		地域理学療 法学	糖尿病に対しての理学療法及び、理学療法士の役割を理解する事を目的とする	2 前	30	2	○			○				○	
○		臨床見学実習	実際の臨床の場の雰囲気を知るとともに、対象者とのコミュニケーションのとり方について体験する。	1 前	45	1				○		○		○	○
○		臨床検査測定 実習	1年次において履修した医療面接ならびに検査・測定技術を、臨床実習指導者の指導の下で体験する。	2 前	45	1				○		○		○	○
○		臨床評価実習	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	2 後	180	3				○		○		○	○

○		総合臨床実習 I	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3前	360	8			○		○		○	○
○		総合臨床実習 II	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3前	360	8			○		○		○	○
○		理学療法形成論 I	前期は、自己紹介および臨床で必要な面接の方法とレポートの書き方を理解する。後期は、評価技術の練習および解剖・生理学の予習を中心に行い、理解を深める。	1前後	30	2	○			○		○		
○		理学療法形成論 II	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	2前後	30	2	○			○		○		
○		理学療法形成論 III	基礎医学をもとに、評価の意味や動作との結び付けなど、更に理学療法の専門性を学習する。	3前後	30	2	○			○		○		
○		ホスピタリティデザイン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。	1前	30	1		○		○		○		
○		コミュニケーション学	医療・福祉の現場で求められる“心の通い合う人間関係”を構築するためのノウハウやスキルを身につけることを目的とする。	1前	30	2	○			○			○	
合計					64科目		3,225単位時間(136単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
すべての科目を修得すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。